

演 說

(第二會場)

腸「チフス菌」ノ一變異性菌株ニ就テ

柿 下 正 道

吾ガ教室ニ古クヨリ保管セラレタル一腸「チフス」菌種中ヨリ遠藤氏培養基上ニ於テ赤色ノ集落ヲ形成スル一異常性狀ヲ表ス菌種ヲ分離培養シ得タリ。該菌ハ單ニ「フクシン」ト亞硫酸曹達ノ加ハリタル培養基上ニ於テモ前者ニ於ケルト區別シ難キ性狀ヲ呈シ、而モ毎常同様ノ性狀ヲ呈スルヲ認メタリ。

以上ノ事實ヨリ該菌ノ遠藤氏培養基上ノ赤變現象ハ乳糖ニ對スル酵素作用ニ依ルモノトハ全ク無關係ナルコトヲ知ル。

而シテ該菌種ハ其他ノ生物化學的性狀、血清學的反應並ニ動物感染試驗ニ於テハ一般腸「チフス」菌ト何等區別スベキ點ヲ認ムルヲ得ザリキ。

此處ニ於テ上述ノ如キ現象ノ出現ガ果シテドフリー氏ノ所謂「ムタチオン」ニ準ズベキ腸「チフス」菌ノ變性ナルカ又ハ適應性ニ依ル一時的ノ不安定ナル變化ナルカハ興味アル問題トシテ目下研究中ナリ。(自抄)

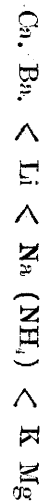
腸「チフス菌」ノ溶菌現象(第二回報告)

本 谷 謙 二

曩ニ余ハ第三十九回日本衛生學會ニ於テ腸「チフス」菌ノ試験管内ニ於ケル溶菌現象ヲ觀察セントスルニハ該菌ヲ五

％ニ鹽化「ナトリウム」ヲ加ヘタル「ペプトン」水中ニ培養セル菌培養ヲ使用スルヲ以テ最モ好適セルモノタル事ヲ述ベ
タリ。

其後各種ノ鹽類ニ就テ反覆精査シタルニ左ノ如キ成績ヲ得タリ。即チ腸「チフス」菌培養ヲシテ溶菌現象ヲ惹起シ易
カラシムル原因ハ係ツテ該培養液中ニ含有セラル、鹽類ノ作用ニヨルモノナル事ヲ實驗セリ。而シテ該作用ハ主トシ
テ鹽ノ「カチオン」ノ種類ニヨリ左右セラル、コト大ニシテ「アニオン」ノ種類ノ變化ニヨリテ蒙ル影響著顯ナラズ。
余ノ實驗ヲ其ノ影響ノ大小ヨリ之ヲ圖解的ニ示セバ



ノ如シ。即チ「カリウム」、「マグネシウム」鹽類ヲ加ヘタル培地ニ培養セル菌ヲ使用スル時ハ如何ナル菌株（余ハ百五
十餘株ニ就テ之ヲ精査セリ）ヲ用フルモ溶菌反應顯著ニシテ「ナトリウム」、「アンモニウム」鹽類ニ於テハ其ノ約半數
ニ於テ陽性成績ヲ得ルモ「リチウム」、「カルシウム」、「バリウム」鹽類ニ於テハ明カニ之ヲ證明シ得ルモノナシ。（自抄）

北陸地方ニ於ケル寄生蟲ノ研究（第一報）

金澤醫科大學醫院第二內科教室（主任大里教授）

荒 井 健 正
林 成 諷

國民ノ保健上、寄生蟲ノ研究ノ重要ナルニ鑑ミマシテ、先般本院第二內科醫長大里教授ノ御指導ノ下ニ、同僚ノ林
君ト北陸地方ニ於ケル寄生蟲ニ就テイサ、カ其ノ一端ヲ研究セント思ヒ立ツタノデアリマス。扱テ此ノ演題ハ御覽ノ
通り甚ダ廣汎ナモノデスガ、遺憾乍ラ我々ガ此ノ研究ニ着手シテ日尙淺イノト、費用等ノ關係上目下ノ狀態ハマダホ
ンノ緒ニ過ギマセンノデ、其ノ點ハ豫メ御諒解ヲ願ツテオキマス。先ヅ我々ハ本院大里內科ノ外來患者ニ就テ本年七